

研究・調査報告書

報告書番号	担当
291	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳) [Is adolescent tobacco use a gateway drug to adult alcohol abuse? A Japanese longitudinal prospective study on adolescent drinking] 思春期の喫煙開始は成人のアルコール乱用の gateway drug といえるか 未成年者飲酒問題 長期追跡調査から	
執筆者 鈴木健二, 木村充, 武田綾, 松下幸生	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Nihon Arukoru Yakubutsu Igakkai Zasshi. 2008 Feb;43(1):44-53.	
キーワード アルコール症(疫学); アンケート; 飲酒; 危険因子; 喫煙; コホート研究; 性因子(疫学); 追跡研究; オッズ比; 未成年者	
要 旨 目的： 未成年者において飲酒と喫煙とは相関していることが知られている。思春期における早期の喫煙開始が成人におけるアルコール乱用・依存のゲートウェイドラッグであるかどうかを検討するため、未成年者の飲酒問題長期追跡調査のデータの分析を行った。 方法： 1997～2007 年に行った未成年者飲酒問題のコホートによる前向き調査のデータから 1999～2005 年の期間を切り取り、その間の飲酒と喫煙との関係について解析した。 結果： 1999 年(対象者平均 15.8 歳)の時点での飲酒・喫煙経験が 6 年後のアルコール乱用を予測できるかどうかを分析したところ、男子においては予測できたが、女子においてはできなかった。 結論： 思春期における喫煙は男子において成人でのアルコール乱用のゲートウェイドラッグであるが、女子ではそうではないと考えられた。	